

Cots多文化教室2024

公共通訳のアウトライン

Cots代表理事 西村 明夫

1

3. 通訳の形態

- ① 逐次通訳: 会話を途中で止めて、その都度通訳
- ② 同時通訳: 発話にかぶせて通訳、一部要約した通訳
- ③ ウィスパリング: 同時通訳的に利用者の耳元でささやく通訳
- ④ 遠隔通訳: 電話やタブレットによる通訳、通訳者は自宅か会社の通訳センターで待機

Copyright Cots

4

■ 通訳の基礎知識

1. そもそも「通訳」とは

- ① 異なる2言語の間の橋渡し
→ 1言語の間は案内・説明業務
- ② 「通訳業務」と「通訳者」の両方の意味で使用
- ③ 通訳と翻訳は異なる業務・作業

Copyright Cots

2

4. 通訳の種類

- ① 会議通訳: 国際会議などでの通訳
- ② ビジネス通訳: 商談などでの通訳
- ③ 通訳案内士の通訳: 本業はガイド
- ④ 司法通訳・法廷通訳・警察通訳
- ⑤ 医療通訳
- ⑥ 学校(教育)通訳
- ⑦ 行政通訳

Copyright Cots

5

2. 求められる能力

- ① 語学運用力: 両言語で十二分な会話と文法力・構文力
- ② 通訳スキル: 短期記憶、メモ術、言い換えスキル、伝達力など
- ③ 知識: それぞれの分野の知識(専門用語の意味など)
- ④ 倫理: 秘密厳守、中立性や正確性の確保など

Copyright Cots

3

■ 公共通訳の特徴

1. 公共通訳とは

- ① 呼称: コミュニティ通訳と呼ばれるもの
- ② 主な種類
 - ・司法通訳: 警察通訳、法廷通訳／身分と報酬が確立
 - ・医療通訳: 医療機関での受付から調剤薬局までの通訳
 - ・学校(教育)通訳: 学校説明会や三者面談などでの通訳
 - ・行政通訳: 役所や福祉機関(児童相談所など)

Copyright Cots

6

2. 公共通訳の難しさ

- ① 公的機関の現場性 ⇒ 時々刻々変化、想定外の事態あり、利用者は千差万別、その場から逃げられない
- ② 通訳環境の不十分さ ⇒ 通訳専用の場所なし、雑音あり
- ③ 事前情報不足 ⇒ 公的機関が出し渋り(個人情報保護から)

Copyright Cota 7

4. 公共通訳のリスク

- ① 公共通訳トレーニングの不足
⇒ 誤訳で訴えられたら…損害賠償はだれが?
- ② 外国人利用者の依存
⇒ 様々な相談、依頼が夜間も…
- ③ 事件・事故・重病などのケース
⇒ 気持ちが沈み、ひきずる

Copyright Cota 10

- ④ 依頼者の非対称性 ⇒ 依頼者の片方は専門家、片方は一般(専門用語を専門用語で訳しても…)、文化や慣行の違い
- ⑤ 専門用語の登場
⇒ 医療用語、教育用語、行政用語などの専門用語
- ⑥ 支援業務の付随 ⇒ 異なる言語の橋渡し業務だけにとどまらない場合(案内、直接説明、説得、ケア…)あり

Copyright Cota 8

■ 公共通訳制度のつくり方

1. 公共通訳(司法を除く)構築の要件

- ① 適切な登録前研修 ⇒ テキスト、講師、プログラムの3つがそろっていること
- ② 登録採用における通訳レベルの確認
- ③ 継続的な研修
- ④ 通訳者を守る仕組み
⇒ 一人で利用者と長い時間過ごすため

Copyright Cota

11

3. 通訳方法

- ① 一人称(遠隔通訳の場合は三人称)
- ② 逐次通訳(説明会などでの通訳はウイスパリング)
- ③ 会話整理、辞書引き、確認作業あり
⇒ 「正確な通訳」をめざす方法を採用

Copyright Cota 9

[テキストの例]



12

- ⑤ 通訳者との取り決め
 - ⇒ 守秘義務、謝金額、金品の授受禁止など
- ⑥ 公的機関全体の理解 ⇒ 身分の安定、付添人との区別
- ⑦ 予算の確保
 - ⇒ 研修費、通訳者謝金・交通費、担当スタッフ人件費など
- ⑧ 人材(通訳者と事務局スタッフ)の確保
 - ⇒ 意欲と熱意が必要

Copyright Cote

13

2. 機械音声翻訳の課題

- ① 正確性 ⇒ 多数派言語は安定、少数派言語は??
- ② 会話の長さ ⇒ 長い会話はミスが入り込むリスクあり
- ③ 入力音声の滑舌 ⇒ クリアな発音が必要
- ④ 個人情報の保護
 - ⇒ ネット環境面とログのセキュリティ
- ⑤ ほかの通訳形態との適切な使い分けが必要

Copyright Cote

16

2. 公共通訳(司法を除く)構築の手順

- ① 先行事例の調査 ⇒ 地域の実情に合った形を模索
- ② 制度設計・取り決めルールの作成
- ③ 公的機関全体の理解と承認
- ④ 通訳者募集
- ⑤ 適切な登録前研修
- ⑥ 通訳者レベルの確認
- ⑦ 登録採用
- ⑧ 制度の運用

Copyright Cote

14

■ 機械音声翻訳の課題

1. 機械音声翻訳の種類

- ① 専用機器によるネット翻訳
- ② スマホアプリによるネット翻訳
- ③ 逆翻訳機能の有無
 - ⇒ 音声翻訳の結果を自身の言語に翻訳

Copyright Cote

15